令和８年度
いわき市保健医療審議会
第１回歯科口腔保健協議部会

議事録

いわき市保健所　地域保健課

令和８年度　いわき市保健医療審議会　第１回歯科口腔保健協議部会

１　日　時　令和８年10月８日（木）　午後２時００分～午後３時３０分

２　場　所　いわき市総合保健福祉センター　３階　健康学習室

３　出席者

委　員	原口　英明	委　員	大石　剛資
委　員	赤津　雅美	委　員	鳥居　直子
委　員	渡邊　佳子	委　員	小野　清美
委　員	飯塚　修一	学識経験者	中里　孝宏
委　員	菅原　勝人		

４　関係各課出席者

学 校 教 育 課	指導主事	安藤　江美
保育・幼稚園課	事務主任	永山　湧生
地域包括ケア推進課	係　　長	鯨岡　孝行
健康づくり推進課	係　　長	後藤　美穂
こ ど も 家 庭 課	係　　長	篠山　絢子

５　事務局職員

いわき市保健所	所長	新家 利一
	次長	中村 寛
	参事兼課長	門馬 將洋
	課長補佐	渡邊 香織
	係長	高木 洋平
	歯科衛生技師	新妻 安菜
	歯科衛生技師	秋山 綾

5　議　事

(1)　報告事項

ア　いわき市の歯科保健の現状について

イ　令和７年度庁内各課の取り組み

（健康いわき 21（第三次）関連事業の評価）

ウ　歯科口腔保健事業の主な取り組み

(2)　意見交換

関係団体等における取り組み状況

6　会議の概要

(1)　報告事項

ア　いわき市の歯科保健の現状について

イ　令和７年度庁内各課の取り組み

（健康いわき 21（第三次）関連事業の評価）

ウ　歯科口腔保健事業の主な取り組み

発　言　者	内　　容
議長	歯科口腔保健事業関係各課より、各事業等における補足説明をお願いしたい。
学校教育課	当課における課題は、フッ化物洗口事業の拡大である。現状、実施校の拡大に向けて働きかけを行なっているが、具体的に何校増加するかについての数字は現時点で申し上げられない。 また、むし歯有病者率が減少している要因は、保護者の意識の変容や、学校歯科医・学校関係者による歯科保健指導のご尽力によるものと考えている。 「歯と口の健康週間（６月）」では、小学１～６年生を対象にした歯垢染め出し剤の配布や歯科医師会からのご依頼による「歯と口の健康週間」図画・ポスター・書写・標語コンクールの募集を行なっている。毎年 600 点近い作品が集まり、表彰されることは子どもたちの意識向上に繋がっている。
保育・幼稚園課	公立の保育所、幼稚園の全施設（実施率 100％）でフッ化物洗口を実施しており、各施設における実施者数も９割を超えている。各家庭や施設において、フッ化物洗口の理解や有効性を実感されているため今後も実施率・実施者数ともに維持できるようサポートしていきたい。
地域包括ケア推進課	基本的に 65 歳以上の方を対象にした介護予防に取り組んでいる。毎

	年２月の「フレイル予防強化月間」には、関係機関と連携したイベント等で、口腔の健康相談を実施した。今後も、介護予防の取り組みの中で、歯科口腔の予防啓発に努めていきたい。
健康づくり推進課	19 歳から 39 歳の健康診査のお知らせ封筒に、歯周疾患検診の案内を追記している。特定健康診査では、対象者に受診券を発送して周知啓発に努めている。また、昨年度多くの市民にご来場いただいた「健康いわき 21 推進市民大会」では、今年度も同様の取り組みを予定しているほか、「からだの見えるお出かけ測定会」のメニューにも歯科口腔に関する内容を取り入れており、引き続き、啓発を進めていきたい。
こども家庭課	母子保健法に基づく１歳６か月児健康診査および３歳児健康診査を担当している。１歳６か月児のむし歯有病者率は、令和６年度の８名から令和７年度は 14 名へと６名の増加がみられた。１歳６か月児の歯科健診で、う蝕罹患型の判定区分が「02（オーツー)」の割合が 48％と、約半数がむし歯リスクを抱えている。これが３歳になると、むし歯の発生につながり、３歳児のむし歯有病者の増加につながっていると考えられる。 １歳６か月児では「甘い飲み物をよく飲む習慣」が 4 人に１人であるのに対し、３歳児では３人に１人に増加しているため、今後は生活習慣の保健指導を強化していきたい。
議長	ただいまの関係各課の報告について、質問や意見のある委員は発言をお願いしたい。
議長	公立小学校におけるのフッ化物洗口について、今年度当初、市歯科医師会として、学校歯科医の先生方に働きかけ、学校健診の際に学校長や養護教諭へフッ化物洗口拡大の周知を依頼した。先日実施された小学校向けのフッ化物洗口意向調査では何校か前向きな回答があった。現在は５校での実施から、来年度の実施校増加は見込めそうなのか。
学校教育課	意向調査では「希望します」「前向きに検討します」を合わせて 10 校程度回答が挙がっている。段階的に拡充していきたい気持ちはあるが、予算の関係上、現時点で具体的な数字を申し上げることはできない。

議長	次年度の予算確保については、増加を見越して進めているのか。
学校教育課	当課としては、関係各課に拡充の意思表示はしている
議長	市歯科医師会としても、様々な働きかけを行なっており、本日出席されている歯科医師の先生方も事業拡大にご尽力いただいている。段階的でも構わないので、ぜひ実施校の増加をお願いしたい。
学校教育課	上司に伝える。
B 委員	本校では、歯科に関する様々な取り組みを行なっており、過去にキシリトールの咀嚼力チェックガムは実施したことある。保健所の取り組みで紹介されていた「咀嚼チェックせんべい」についてご教示願いたい。
事務局	お米で作られた小判型のせんべいを 30 回咀嚼してもらい、しっかり飲み込めるかどうかで、お口の状態を簡易的にチェックするものである。
C 委員	歯科健康教育における高齢者向けの「フレイル予防」の講話では、具体的にどのような話をされているのか。
事務局	各地区の保健福祉センターや関係機関からの歯科講話の依頼を受け、健康教育に出向いている。内容としては、基本的な口腔ケアに加えて、舌ブラシを用いた誤嚥性肺炎の予防などを伝えている。
C 委員	部会のあいさつで、保健所長から「全身の健康と口腔の関係性」についてお話があったが、そういった話も含まれているのか。
事務局	皆さん全身の健康には意識が向きやすい一方、口腔については後回しになりがちであるため、口腔と全身の健康の関連性を含めた講話をしている。
C 委員	前回の部会でも、口腔と全身の健康の関連性については、低年齢の対象者のうちから講話に取り入れることが効果的であるといった意見が出たため伺った次第である。
議長	電話・来所相談の相談内訳に「障がい者」とあるが、保健福祉セン

	ターに来所して相談を受けているのか。
事務局	来所相談は、主に一般市民を対象としており、障がいを持った方からの相談は主に電話で対応している。
議長	市歯科医師会では、私含め本日出席している先生方も 20 年以上障がい者歯科に携わっており、木曜日および隔週水曜日に障がい者や車いすの患者を診察している。現在は、ネットで容易に情報が得られる時代だが、障がいを持つお子さんの口腔ケアについてどう接してよいか分からない保護者も多いと思う。できれば障がい者施設等で出前相談のような機会を設けていただけるとありがたい。人員等の対応が難しい場合は、市歯科医師会も協力する。口腔状態が著しく悪化すると本人も術者も負担が大きいため、普段からのケア大切であるという共通認識を持つことが重要である。

(2)　意見交換

関係団体等における取り組み状況

発　言　者	内　　容
議長	各関係団体における取り組みや、日頃の活動、歯科保健対策について感じる課題について各委員より意見をいただきたい。
Ａ委員	本市の三師会において、口腔フレイルに関するプロジェクトチームの発足についての話が出ている。口腔は子どもから大人、高齢者まで全世代に関わる課題であるため、今後関係団体と連携しながら進めていきたい。 また、各課の取り組みにある、訪問口腔衛生指導について、現在数件と記載があるが、今後はどれくらい拡大できそうか。
事務局	他の業務との兼ね合いもあるが、ご依頼があれば原則として引き受けている。
Ｂ委員	学校では、給食後の歯磨きを実施している学校とそうでない学校がある。また、児童の生活習慣の乱れが増えている印象があり、保護者の意識をどのように高めていくか、養護教諭としても学校で働きかけていきたい。むし歯治療を促す文書を配布しても、すぐ治療する家庭と複数むし歯があるにもかかわらず何年も放置する家庭と、意識の差が激しくなっていると感じる。 本校では、歯科講話を依頼したり、栄養教諭による食に関する授業

	や、噛むことの大切さを理解するための「かみかみメニュー」が月1～2回程度給食で提供している。
議長	私自身も学校歯科医として市内２校を担当しているが、大規模校では水道設備等の問題から給食後の歯磨きが行われていない様子が見受けられる。給食後の歯磨きをしている校数などは把握しているのか。
Ｂ委員	把握していない。
議長	学校単位だけでなく、担任教諭によっても歯磨きを実施しているクラスとそうでないクラスがあるように感じる。学校での歯磨きの実施状況もフッ化物洗口拡大に向けた一つの指針になるのではないか。また、最近は学校への水筒持参が認められていると思うが、中身の指定はされているのか。
Ｂ委員	基本は水、お茶である。学校によっては、熱中症予防期間中はスポーツドリンクも可としていると聞く。
議長	子どもは甘味飲料を好みがちであり、栄養ドリンクを水代わりにし、高校生ですべての歯がむし歯になっていた事例もあった。たまに摂取する分には問題ないが、むし歯予防の観点からは、甘味飲料の常飲は避けるようにしてほしい。
Ｂ委員	親御さんから、下校中の熱中症を心配する声が挙がっているのも事実である。
議長	その時期に応じて柔軟に対応してもらう分には構わない。
Ｃ委員	幼児やフッ化物の話題が多く出る一方で、口腔ケアの重要性（誤嚥性肺炎や歯周病と全身の関連など）についての啓発を、高齢者や成人にも広く周知できたら良いと思う。
Ｄ委員	市歯科医師会の取り組みとして「歯と口の健康まつり」でフッ化物洗口体験を実施した。小学校で実施しているものと同様のポーションタイプを使用し、実際の味などを体験していただいた。また、市歯科医師会会員に向けて、学校健診の際に、学校関係者にフッ化物洗口の効果を説明できるよう周知を図った。

	個人としては、市内のフレイルに関する事業の依頼を受け、口周りの筋肉を鍛える体操や唾液腺マッサージなど、オーラルフレイル予防の大切さについて講演した。また、10 月に開催される市医療センターのメディカルフェスティバルでも、市歯科医師会と歯科衛生士会いわき支部による歯みがき指導や歯科保健指導などのブース出展を予定している。
Ｅ委員	歯磨きの取り組みもだが、養護教諭や学校の裁量に左右されている面を感じる。口腔ケアの大切をアピールできる啓発の機会をもっと設けられると良いと思う。
Ｆ委員	学年や年代に応じたお口の健康に関する講話を行なっている。小学校中高学年では「１グラムの歯垢の中に含まれる細菌の量」などインパクトのある話題から歯みがき指導につなげており、高校生からは、「もっと早くから知っておきたかった。」という感想も聞かれた。また、高齢者・障がい者施設の職員に向けた口腔ケアの講話や、集いの場におけるチェックリストを活用したオーラルフレイル予防の講話も実施している。
部会長	高校からの歯科健康教育は、学校歯科医から依頼があるのか。
Ｆ委員	高校の養護教諭が福島県歯科衛生士会に依頼し、いわき支部に下りてくる形となっている。
部会長	高校は、小中学校のような定期的な指導の範囲から外れがちであるため、高校からの依頼については積極的に受けていただきたい。また、障がい者施設からの依頼等についても市歯科医師会としてサポートするので、対応をお願いしたい。
Ｇ委員	利用者の口腔状態はケアマネジメントの中で必ず確認している。訪問時に「食事がとれているか」「嚥下ができているか」「むせはないか」等を確認しているが、高齢者はそれぞれ口腔に関するトラブルや悩みを抱えているのが実情であり、「適切に治療されていればこうならなかったのに」というケースも少なくない。 ここ数年、各事業所で口腔機能向上訓練（口腔体操や筋力アップ）が行われ、自分の口で経口摂取できるような支援が続けられている。

H委員	歯科医師会として複数の歯科医師で市内の障がい者施設へ訪問診療や、職員に向けた口腔ケアの指導を行なっている。また、医療的ケア児を受け入れているデイサービス施設からの依頼により、親御さんの困りごとを事前調査したうえで、歯科衛生士・歯科医師が職員・保護者向けに口腔ケアの指導を実施した。 さらに、歯科診療体制としては、子どもは「口腔機能発達不全」高齢者は「口腔機能低下症」の審査が可能になり、歯科医師や歯科衛生士の専門的な指導ができるようになった。 三師会としてもオーラルフレイル対策を積極的に進めていきたい。 個人的な感想だが、就学前健診の新入生が以前は約 70 人だったのが、今年は 31 人に減少していた。今回の健診結果では、むし歯のある子が３名、治療済みが複数名であった。幼稚園や保育園でフッ化物洗口に取り組んでいる成果でもあるため、小学校でもぜひ積極的に実施していただきたい。
学校教育課	全体的に就学児は 2,000 人を切っており、学級数も減少傾向にあるのが現状である。
議長	高齢者の口腔状況について、訪問して治療が必要な方と全体的な口腔衛生指導が必要な方ではどちらが多いのか。
G委員	両方である。通院が難しい方は訪問歯科診療を受けて治療が終了した後、定期的な口腔衛生指導につながる。しかし、自分で歯みがきができないわけではないが「行わない」高齢者も多く、その促しを家族やヘルパー、デイサービス等の施設にお願いしている現状がある。
議長	訪問歯科診療について、提携先や依頼先の連携は取れているのか。
G委員	職員間でも情報共有されており、訪問歯科に関する連携は取れている。
議長	以上をもって、本日の議事を終了とする。